

「農業の魅力発信に関する研究」～ホップ栽培の可能性を探る～

熊本県立天草拓心高等学校

ホップ班 4名

1 研究の動機

私たちは昨年、地域理解および地域の課題を発見するというテーマのもと調べ学習や地元若手農家の方々との交流会学習を進めるなかで、耕作放棄地の問題について興味を持ちました。耕作放棄地が増える原因として、農業者の高齢化や後継者不足による農業人口の減少があげられます。そこで、私たちは耕作放棄地を少しでも減らしたい。何か新しい作目はないかと検討を重ねてきました。

2 研究の目的

何か新しい作目はないかと悩んでいた私たちは、天草ソナービール代表の荒木信也（あらきしんや）さんと出会いました。荒木さんは2018年から実家である五和町鬼池の圃場2100㎡で17品種のホップを栽培されており、今年の5月には実家横に醸造所を構え、自家製ホップでビール製造をされています。実家の休耕地を活用して、地域に根ざしたビールを造りたいという熱い思いに私たちも感銘を受けました。そこで私たちは、天草地域におけるホップ栽培で農業の魅力発信と耕作放棄地解消に繋げることはできないかと考えました。

3 研究の目標

今年度の目標は①ホップの栽培管理方法を知る。②挿し木の方法を知る。③誘引方法を検討し、試験栽培に繋げる。④勉強会を3回実施するの4つです。

4 今年度の研究概要（令和2年度）

今年度の取り組みは以下の通りです。

- ①ホップ栽培についての調べ学習
- ②挿し木による苗育成試験（9～10月）
- ③栽培に関する勉強会（3回；10月、12月、2月）
- ④栽培圃場の整備、土作り（12月）
- ⑤定植準備 誘引紐下げ、元肥、畦立て（1～2月）
- ⑥苗定植（3月）

5 進捗状況

8月27日に収穫後の蔓を分けてもらい挿し木による苗育成試験を実施

しましたが 1 ヶ月たっても発根の様子はなく失敗に終わりました。調べたところ、挿し木の適期は4月から5月に出る新芽が適しているということがわかりました。

ホップすら見たことのない私たちは、ホップの栽培について調べました。

ホップとは、春～秋に茎葉（けいよう）を出して成長し、冬は根と芽の状態で越す宿根草（しゅっこんそう）で、そのサイクルを毎年繰り返します。ビールに苦みや香りを付け、保存性を高める要素もあることから原料として生産されています。日本国内の生産量は東北が圧倒的に多いそうです。

栽培方法は【3～4 月】土の中から新しい芽が出てきて、蔓が伸び、高さ 5m ぐらいまで成長します。天草では 3m ぐらいにしか成長しないそうです。【7～8 月】花が咲いてホップへと成長し、その後収穫のようです。

10月5日に荒木さんの栽培圃場に出向き 1 回目の勉強会を実施し、今後栽培する上でのポイントを教えていただきました。その後、醸造所も見学させていただきました。

12月14日に2回目の勉強会を実施しました。内容は天地返しで、土を耕すことで、微生物による有機物の分解促進や土中に残った養分の混和などの効果があり、作物の生育環境を最適に整えるためはとても大切な作業であることを教えていただきました。次回は、2月に実施し、株分けをしてもらう予定です。

栽培する圃場は本校で使用していない3連棟のハウスを利用することで支柱を立てる必要もなく栽培可能と判断しました。天井からヒモを吊り下げて栽培する予定です。

6 次年度の研究概要

次年度の取り組みは以下の通りです。

- ①ホップの試験栽培 誘引、追肥、剪定、収穫（4～9月）
- ②誘引方法の違いによる収量比較試験
- ③栽培に関する勉強会
- ④研究のまとめ

以上で発表を終わります。